

第 45 回 小山市バス交通整備検討委員会 議事要旨

■開催の概要

1. 日 時：2017. 9. 21（木） 14:00～15:00
2. 会 場：小山市役所別館3階 会議室3
出席者：永井委員長、篠崎副委員長
山口(忠)、齋藤、菊池、高橋、柿崎、片柳、
関口(栗田委員代理)、山口(裕)(益子委員代理) (以上 計10名)
3. 議 題：(1) 市民病院線乗り残し解消のための中型車両導入及び路線変更について
(2) デマンドバスの主要施設追加について
(3) その他
4. 報告事項：(1) おーバス絵画コンテストの開催について
(2) その他

■議事要旨

●議 題

(1) 市民病院線乗り残し解消のための中型車両導入及び路線変更について

資料1に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

[主な質疑応答]

- (委員長) 2便は乗り残しがあるようだが、それ以外は50人乗り車両になった時、利用者はい
るのか？やはり朝夕の時間帯に、利用者が集中するのか？
- (事務局) 小山駅で乗降数を数えているが、かなり乗り残しが出る。14便の午前中の病院
からの帰りも多くなっている。H28、29年の月ごとの利用者数一覧を見ると、利
用者数は伸びている。
- (委員) 乗り残しが出た場合どうしているのか？
- (事務局) 次の便を待ってもらうか、小山駅東口から出ている新市民病院循環線を利用して
もらっている。出発時で満車であるため途中のバス停から乗れない場合がありク
レームとなっている。
- (委員長) 若木町循環ルートのとータル人数がさほど多くないようだが、若木町に行く便をカッ
トして、病院への便を増便してはどうか？
- (事務局) 今回のダイヤは若木町循環を2便減便している。低床バスなら利用者増えるはず。
50人乗りバスと言っても、座席は27席のみで、立ち乗りを含め50人まで乗
れるということだ。旧市民病院の近隣の方には、(神鳥谷に移転となり不便になっ
たことから)便宜をはかるために必要。数は少ないが利用はある。
- (委員) 若木町循環に、50人乗りのバスを循環させる意味はあるのか？若木町循環は、ハイエ
ースのまま運行してはどうか？乗り継ぎで利用してもらって。
- (事務局) バス2台の運行は、経費が2倍になるので厳しい。1台の車両で運行したい。
先ほども申し上げたとおり、旧市民病院近隣の方の利便性向上のため必要。
- (委員) 1路線で運行する現時点においては1台での導入はやむをえない。旧市民病院跡地へのリ
ハビリ施設のオープン時(H32予定)には、中型車では道路が狭く入れないのでそ
ちらには小さい車両を、新市民病院には大型車両を運行するなど、将来的に2路線で検討
する必要があるだろう。
- (事務局) リハビリ患者には、ハイエースは低床でないため利用しづらいので日野ポンチョ等
の低床車両を検討していきたい。

(2) デマンドバスの主要施設追加について

資料2に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

[主な質疑応答]

(委員) 追加される施設が増えるのは、よいこと。

(委員長) 一筆書きのような形で運行しているのか？

→ (事務局) 出発点と目的地はいろいろな要望、ベクトルがあり、申し込み時にその都度ルートを決めている。

(委員長) その度にルートを決めて、不都合はないのか？

→ (事務局) デマンドバスの予約は、タクシーのオペレータが2時間半前まで予約を受け付けルート決定している。稼働利用率が50%以上に増えたら、オペレータ1人では対応できないので、システムの導入を考えたい。

(委員) タクシー会社に委託しているのか？

→ (事務局) 大山タクシーに委託し、5エリアで運行している。

(3) その他

(1)～(2)までを総括して、質疑応答を行った。

[主な質疑応答]

(委員) 桑地区のいきいきふれあいセンターにデマンドバスを利用して出かける人が増えてきた。ただ、乗り合いのため、1時間以上乗ったまま待っている人がいる。待ち時間が多く、不便だという声がある。美田地区はデマンドタクシーを運行しているが、利用の無いときに、それを桑地区へ回してもらえないか？

→ (事務局) 桑・絹エリアと大谷・間々田エリアで、予備車が1台ある。利用の多いときはその車両を活用する。

(委員長) 集中して申込みができるようにしてはどうか。エリアを2台でカバーするなど。

(委員) 美田地区のいきいきふれあいセンターの事業は、曜日を変えることで分散している。

(委員長) 融通は利くのか？

→ (事務局) エリア内の運行台数を増やすことより、なるべく大勢で相乗り利用してもらったほうが、収支がよくなる。経費との兼ね合いとなる。

(委員) 1～2人の利用の場合は、デマンドタクシーでよいのでは？

(委員) 桑・絹エリアは利用人数が比較的多いのでワゴン車でデマンドバスを運行するという契約であり、業者はその為の車両をストックしている。次の契約更新の際に、タクシーも契約するのかという話しになる。

(委員) いきいきふれあいセンター事業に100人が参加する時がある。

(委員) デマンドバスは1時間単位で個人を拾って目的地に行くので、13人単位でエリアごとに申し込んでもらってはどうか？利用者が多ければ、別枠で大型バスを導入したほうがよいのでは？

→ (事務局) いきいきふれあいセンター桑の事業でデマンドバスを利用している方は、12名、13名と1台でほぼ満車で利用してもらっている。デマンドバスは1回200円だが、いきいきふれあい事業の福祉の移送サービスで100円の補助がある。

(委員) 多少、待ち時間が多くても、楽しく会話しながら、乗っていただいているかどうか？

(委員) 乗車時間が長くなってしまいう利用者がいらっしゃる、という意見があったということをご報告したまでです。

(委員) 小山市の公共交通人口カバー率は95.5%である。市街化区域のなかで、路線バスが通っていないエリアが、カバーできていないが、今後どうするか検討する必要がある。路線バスが走っているために、デマンドバスを利用できない調整区域もある。

(委員長) 間々田がカバーできていない。

- (委員) 思川と4号線の間もカバーできていない。4号線沿いを走らせれば良いが、3年後には、新市庁舎が完成し、行政の主要機関がすべて集まるので、それまでに考えるべき。
- (事務局) 調整区域の中でカバーできていない、光南病院、乙女磯の宮付近を、大谷間々田エリアに加えたいが、タクシー協会との調整が必要。また、新市庁舎完成時までには改めて検討が必要。
- (委員) バスのカバー率算出根拠が、国ではバス停から300mとなっているが、400mとしている自治体もある。大都市と地方都市では人口密度が異なるため一律にはいかないと思うが、小山市としての基準の下空白地区解消への取り組みが必要。
- (事務局) これから研究し、空白地域をなくすよう検討したい。
- (委員長) 空白地域をなくすよう路線を変更してほしい。
- (委員) ノウハウは、国交省が出しているのので、研究してください。

4. 報告事項

(1) おーバスまつりの開催について

資料に基づき、事務局より説明があった。

(2) その他

(以上)